



# 江南の子

令和5年度  
第11号

## 挨拶で「考える」

校長 藤塚 静治

私は、江南小学校の子どもたちは挨拶がよくできる子どもたちだと思っています。例えば、私が校内でお客さんを案内していると「こんにちは」と明るく挨拶をしてくる子どもがたくさんいます。お客さんは目を丸くした後に笑顔で「挨拶がとてもいい子どもたちですね」と言います。

しかし、新年を迎え、寒さが厳しくなると、登校時の校門での挨拶が、少し元気がないように思っていました。寒さが理由と思っっているので、私はなおさら元気な声で挨拶をします。もちろん、元気に挨拶を返してくる子どももいます。私よりも先に挨拶をする子どももいます。しかし、やはり心なしか元気がないように思っていました。



1月下旬、学校職員で今年度の教育活動の振り返りと来年度の目標について話し合いました。来年度、子どもたちにどんな力を育てることが適切か（「力」は、近頃は「資質・能力」と読み替えます）、数々の案の中に「考える」がありました。

安易に行動せずによく考えて実行してほしい。言われる前から取り組んでほしい。江南の子どもをもっと伸ばしたいという思いや願いから、自分の考えをもち、その考えを深める力を育てることを大事にしたいという意見がありました。そのためには、大人がすぐに言わずやらせず、「待つ」ことが大事であるという構えも挙げられました。

そこで、試みとして、私は先に挨拶をせずに待つことにしました。ただし、全力の笑顔で目を合わせる働き掛けはすることにしました。いよいよ実行の朝です。子どもが学校へ、校門へ、私へと近付いてくるのをにこにこ待ちました。すると、発するタイミングはそれぞれ違いますが、子どもから「おはようございます」と挨拶の声を掛けてくるのです。

子どもはきっと考えたことでしょう。何も言わずに笑顔で待っている大人がいる。その距離は徐々に縮まる。今は朝、ここは学校前、登校してきたのだから、その大人と交わすべきことは…。ちよっぴりどきどきするけれども、頑張るべきことは…。

私もうれしいことに、挨拶をしてきた子どもには、「自分から先にできて、いいね!」と認める声掛けをしながら挨拶できます。声の大小はありますが、認めることができます。なんて素敵な朝なのでしょう。

朝のほんの一コマですが、子どもも職員も「考える」を大事にすることで江南の子どもは力を伸ばしていけると感じました。もちろん、時と場によって働き掛けは違うので、そこも「考える」ことが大切です。保護者・地域の皆さんからも、ご理解をいただきたいと思います。家庭・地域において、子どもも大人も「考える」を大事にする、ということ。



# 思い出アルバム ～6年生ありがとう週間～



19日から6年生ありがとう週間が始まりました。もちろんその前から、5年生を中心に綿密な準備がされていたことは言うまでもありません。この期間、昼休みには、毎日、1学年ずつ6年生と遊ぶ機会が設けられています。それぞれの学年が思い思いの遊びを実に楽しそうにしていました。6年生と一緒にいられる残り少ない時間を惜しむように大切にその時間を過ごしていたようでした。

そして、29日はフィナーレとして6年生ありがとう集会在5限に計画されています。きっと、どの学年にとっても思い出に残るいい会になることと思います！当日はぜひ、お子さんに会の様子を聞いてみてください。

1年生と6年生で「じゃんけん列車」の様子



6年生といっしょに活動できて楽しいな



長い列車になってきたぞ！

2年生と6年生で「だるまさんがころんだ」の様子



だるまさんがころんだ！



よーし絶対つかまえるぞ★

そして、気が付くと、6年生のために活動する姿が…

3年生が廊下の飾りつけを



6年生喜んでくれるかな♡

4年生が体育館の飾りつけを



どの子もみんな6年生のためにもっていい顔をして活動していました！